

# 笛吹市探訪

## 『桂野台地に花ひらいた美しき 縄文文化——桂野遺跡を訪ねて』



渦文深鉢

スポットガイド・エリアマップで紹介した遺跡を訪ねるシリーズの3回目として今回は『桂野遺跡』を取り上げます。

桂野遺跡は、御坂町上黒駒地域の桂野台地に位置しています。縄文時代中期（約5500年前）4500年前）を中心とする集落遺跡で、その範囲は東西約500メートル、南北約200メートルにも及びます。甲府盆地東側には、釈迦堂遺跡・花鳥山遺跡・三光遺跡・中丸遺跡などの著名な縄文時代の遺跡があり、当時、一帯に縄文文化が栄えていたことがうかがえます。

桂野遺跡においては、昭和28年の農道工事の際に多くの縄文土器が出土し、それを契機にその後も数度の発掘調査が行われました。平成9年から実施された発掘調査では、多くの住居跡・墓・落とし穴などが発見されました。



みさかっぱ



ヤツホー



敷石住居跡出土状況

バラエティに富んだ土偶が出土。出土した土器の表面には、だ円や長方形を組み合わせたような幾何学文様や、へびなどの動物を表現した文様などがみられます。また、過去の調査では、土器の表面全体に渦巻き文様が描かれている通称「渦文深鉢」と呼ばれる土器も出土しました。

土偶は、県で確認されている約2600点の土偶のうち約110点が桂野遺跡から出土しています。胴部でふたつに折られた通称カッパ型土偶（愛称みさかっぱ）、同じ状況で出土した通称バンザイ土偶（愛称ヤツホー）など自ら立つことができる立像土偶や、手を肩にのせたポーズ土偶などバラエティに富んだ土偶が出土しました。土偶は、縄文時代前期から晩期までつくら

れましたが、県では、縄文時代中期のものが大部分です。また、大多数の土偶は、故意に壊された状況で出土するという特徴があります。このような状況で出土した土偶には、どのようなメッセージが込められているのでしょうか。読者の皆さんも、想像してみてくださいはいかがでしょう。

最後に紹介するのは敷石住居跡です。敷石住居跡は、縄文時代中期に出現し、縄文時代後期（約4500年前）3300年前）に多くみられます。これまでに県内では、約200軒の敷石住居跡が確認されています。しかし、縄文時代中期の敷石住居跡は、それほど多く確認されていませんが、桂野遺跡では発見されました。一部に欠損



上空から見た発掘調査地点

している部分がありました。残っている部分だけでも、使用された石材は368点にも及びます。最も大きな石は、150キログラムから200キログラムと推定されています。

さて、ここまで、桂野遺跡について紹介してきました。現在、桂野遺跡は、土の中で静かに眠っています。なお、出土した土器などは、県立博物館や春日居郷土館に展示され、縄文時代の生活の一端を私たちに伝えていきます。

市内の遺跡を紹介したスポットガイド・エリアマップは各支所や市立図書館に設置してあります。ぜひご利用ください。